



# \*イファット だより\*

～農民参加なくして農業なし～

## 第37号



エルサルバドル国女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域づくり事業  
～開発ポテンシャルを活かすプロセス支援～

### 特集：エルサルバドルのJICA草の根技術協力

#### 目次

- ・P 2 1・案件概要、2、活動概要
- ・P 3 3. 主な成果
- ・P 3 囲み「寄り添い活動」 理事・主任研究員 和田彩矢子
- ・P 6 JICA海外協力隊としての活動と想い JICA海外協力隊2023年4次隊 窪田 淳
- ・P 7 囲み「カウンターパートからの寄稿」 コンチャグア地区コーディネーター-DAYS VELASQUEZ
- ・P 7 草の根技協終了後1年ぶりに現地を訪問 理事・主任研究員 和田彩矢子

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク

**NPO-IFPaT** International Farmers Participation Technical Net-work

## 1. 案件の概要

案件名： 女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域づくり事業  
～開発ポテンシャルを活かすプロセス支援～

対象国・地域： エルサルバドル共和国ラ・ウニオン県コンチャグア市

受託者： 特定非営利活動法人 国際農民参加型技術ネットワーク（NPO法人イフパット）

カウンターパート： コンチャグア市役所

全体事業期間： 2021年3月25日～2024年5月31日

## 2. 活動概要

コンチャグア市は同国東南端の都市で人口約5万人。町の中心に国内最古の教会があり、近隣3カ国の海域が入り組むフォンセカ湾に面し住民の多くが漁業や観光業などに従事している。アメリカ合衆国を中心とした国外移住者も多く、全住民の約20%が海外からの送金を受け取っているが、生活の改善に向けた活動に活用されている事例は限定的である。市は特に開発の遅れた南部海岸部3村を開発優先地域と設定し、スポーツを通じた非行防止や集落センターの活用による地域活性化に力を入れているが、住民の援助依存体質、内戦で生じた社会的連携感の欠如が地域開発の障壁となり課題は山積している。

本事業は、現地の行政官と住民に「誰もが、いつでも、何でも」改善活動を始められるという気付きを促し、主体性醸成と地域おこしを促進することを狙い、プロジェクト目標を「コンチャグア市内集落において、生活改善アプローチ手法を用いて、女性の生活改善・青少年のビジョン形成（人おこし）を柱とした、地域開発モデルとしての地域おこしが展開される」と設定した。期待される成果は以下の5点。

- (1) 生活改善アプローチの普及手法を習得し、人づくりを重視する地域開発を担う人材が育成される
- (2) 農漁家女性の生活上の課題（個別・地域）に対する解決能力を習得し、主体的に行動する女性が育成される
- (3) 個別ライフビジョン形成を経て、主体的に生涯学習をする青少年が育成される
- (4) コンチャグア市全体(市、ADESCOs、NGO、住民他)で地域づくりのためのプラットフォームが構築され、活動が開始される
- (5) 指標分析を含め、プロジェクト実施プロセスと成果が体系化される



### 3. 主な成果

#### (1) 生活改善アプローチの普及手法を習得し、人づくりを重視する地域開発を担う人材が育成される

コンチャグア市職員に対し、生活改善ファシリテーター養成定期研修を行い、継続して職員らは、来日研修、第3国研修、OJTを通し生活改善アプローチの普及手法を習得した。研修を受けた職員らは生活改善ファシリテーターとなり、OJTでの集落ワークショップを約140回行うなど、住民の課題解決活動支援に向けた寄り添い活動を行っている。

彼女らは、振り返りのファシリテーターミーティングを約30回行い、普及手法と地域づくりについての協力関係を構築している。育成されたファシリテーターは新規着任する市職員に対し、生活改善WSとファシリテーターの姿勢など生活改善手法について説明できる能力を有するまでに育った。

ファシリテーターは、本邦研修において「学ぶ」グループから「実践する」グループへ育てる事の重要性などの学びを得た。また、国内ではチランガ市など3市3集落で、国外ではファシリテーター育成研修（コスタリカ）、住民育成研修（コスタリカ、グアテマラ、コロンビア）を実施。各地域の生活改良普及員や住民と相互学習会を行った。複数省庁連携、大学連携、住民自身の健康増進や環境美化の事例などを習得し、相手側に対しても本事業の活動成果を共有することができた。



写真：ファシリテーターとして生活改善アプローチを習得した市職員たちと

#### 寄り添い活動

住民と共に歩む、  
家々を訪ねる、  
女性や青年層の話に耳を傾ける。  
教えるのではなく、  
住民自身が考え行動できるよう  
促す・・・  
これらは生活改善ファシリテーターの  
一面です

簡単そうに聞こえますが、  
プロセスのための時間と  
献身的労力が必要なので  
市職員が通常業務として実践するには  
難しさもあります。

この2年間、コンチャグアでは、  
生活改善アプローチを通じて  
人づくりにフォーカスしてきました。

今回、生活改善サークルのメンバー数名の  
ライフヒストリーに耳を傾けたところ、  
自分自身で実践し  
達成できたことの感情、  
家族と工夫してやってみたアクション、  
生活改善ワークショップ前後の  
考え方や行動の変容を  
それぞれが語ってくれました。

言葉の端々から滲み出る温かさをお楽しみ  
ください。

和田彩矢子 Sayako WADA  
(プロジェクトマネージャー/ IFPaT)

#### (2) 農漁家女性の生活上の課題（個別・地域）に対する解決能力を習得し、主体的に行動する女性が育成される

生活改善ファシリテーターが、コミュニティ開発協会や住民に対しプロジェクト活動説明を行い、目的・ゴールを明確化するとともに、選ばれた8集落8サークル115名の女性（男性含む）に対して、延べ80回以上の生活改善アプローチの定期研修・ワークショップ（以下WS）を行った。研修後、農漁家女性が生活改善ファシリテーターの支援のもと、参加型ベースライン調査を実施し、現状を把握した。

WSに参加した農漁家女性らは、生活改善の活動サイクル（現状分析、計画、実践、振り返り）を習得し、自身で課題を分析し、解決策を検討する習慣を身につけた。個人レベルの生活改善活動を実践。また家族レベルの改善を行っている。農村環境指標5項目内、1)心身の健康、2)家庭内調和、3)家計、4)環境、5)地域づくりなど複数の活動が住民の発案により実践され課題解決に至った。

生涯学習の習慣付けのため、生活改善ファシリテーターや他機関が、課題分析に基づき自尊心向上、栄養改善、家計簿記帳、家庭菜園などの生活技術研修や勉強会を行った。

対象の8集落、8サークルにおいてサークルレベルの活動、集落レベルの活動（清掃、保健センター前のペンキ塗り、ゴミ拾いなど）が実施された。本プロジェクトを経て連帯感や結束力が醸成された女性達が、自然と地域のために活動を始めた、という報告がある。



写真：ハグエイ集落の生活改善グループ

### (3) 個別ライフビジョン形成を経て、主体的に生涯学習をする青少年が育成される

自尊心向上ワークショップ、生活面分析ワークショップ、寄り添い活動、個別ライフビジョン形成を経て、主体的に生涯学習のプロセスを開始した青少年が155名育成された。

事業開始当時、1か月後の事でさえ想像できないと話していた青少年達は、定期活動を経て、1年後の自分、10年後の地域などポジティブなイメージを持てるようになった。特に健康面と環境面の実践が顕著で、食生活の変容をもとに健康でいる自分のために今何をすべきといった目的と活動が明確化した。

2集落2サークルにおいて、青少年グループは「地域の姿10カ年計画」を協議・策定した。事例として以下の5事例を挙げたが、このうち既に3つ以上の実践が開始されている。

1) 家庭内調和：両親に自分の課題を話す、何か決断する時に親に相談する

2) 心身の健康：10歳以下の子供が体に悪いスナック菓子を減らし身体に良いものを食べるよう促進する

3) 家計：収入の5%ずつ貯蓄する

4) 環境：ビーチのゴミを減らし、果物や観賞用木を植樹する

5) 地域づくり：公園の伝統的な遊具を増やす、道路の段差を見やすく塗る

対象集落の一つであるジャノ・デ・ロス・パトスの青年層生活改善グループは、女性サークルや保健プロモーターと実施したデング熱撲滅の町中の燻蒸作業やゴミ拾いを始め、腰上までつかりながら行った川の中のゴミ拾いなどの地域活動の様子を、SNSを通し発信した。



写真：ジャノ・デ・ロス・パトス集落の青年層生活改善グループの10年プラン立案ワークショップ

最終的には、4集落の青少年生活改善グループ間で意見交換会が行われ、改善グループのネットワークが構築された。

### (4) コンチャグア市全体（市、ADESCOs、NGO、住民、他）で地域づくりのためのプラットフォームが構築され、活動が開始される

プラットフォーム構築に向け、子供課管轄の既存プラットフォームとの意見交換を行い、重複しない事、お互い地域おこし全体を目的としている事など共有し、協働の運営体制を整備する協議を行った。また集落住民が多く従事する民間会社カ

ルボ社及びエルサルバドル大学サンミゲル校とも連携し、今後インターンや演習でコンチャグア内の生活改善サークル活動と学生との意見交換会や、生活改善技術講習会などを開催する旨、合意した。地域おこし活動は保健センター前や学校、各家庭に集い実施された。カルボ社との連携で使用済みパレットの寄付、栄養改善に向けたツナを活用した料理講習会などを実施した。また、他組織が実施する職業訓練のセミナーは普及員が仲介した。

コミュニティ開発協議会(ADESCOs)は生活改善サークルメンバーの女性達が副会長、役員になるケースが増えた。活動が集落全体に面的にひろがり、小さなプラットフォームが集落ごとに作られている事が確認できる。例えばジャノ・デ・ロス・パトス集落では、清掃や環境美化、栄養改善に向けた菜園活動を重視した地域活動が実施された。以前は市に申請するのが主流だったが、自ら工夫して解決する手法に変容している。各集落でも、ADESCOsにサークルの活動や地域活動を報告し意見交換をする場を設け、集落レベルの改善計画のビジョンに基づいた活動が協働でなされるような基盤が整った。

トラウ集落では米国移住者アソシエーションに対し、生活改善サークルメンバーが活動の説明や分析した集落の課題、また実践した地域改善活動について対話を行うとともに、海外送金を地域おこしに活



写真：地域づくりのプラットフォーム構築に向け、市内複数集落の8つの生活改善グループが集い事例共有と意見交換

用する仕組みについて協議をした。またワシントン在住の移住者協会に対し、本事業のプロセスと成果を示す活動紹介ビデオ(長編2本、短編10本)を策定し、理解深化に寄与した。

## (5) 指標分析を含め、プロジェクト実施プロセスと成果が体系化される

生活改善活動実践の達成度を測る定性的評価指標として、①女性自身のセルフケアにもっと時間を割く、②自分達で考えた家族・地域活動への参加する、③家庭や地域社会における女性の役割の重要性を高め、その役割を周囲が認識する、など7つの要素がチーム内で策定された。

参加者の意識変容・行動変容を把握するためヒアリングや満足度調査が実施された。これらを基に、生活改善行動実施者の考え方の変容、行動変容のプロセスと成果にかかる生活改善事例集(個人・集落)、ライフストーリー集を体系化、記録化した。本事業を通し、二年弱の活動ではあるが、総計280名の特筆すべき変容、成長が確認された。

プロジェクト実施プロセスとして生活面の現状分析、自尊心向上の心理面強化、集落レベルの各手法を取りまとめたガイドライン及び住民の行動変容プロセスを記録した生活改善事例集、ライフストーリー集を作成した。

南ウニオン市を形成する他7市をはじめ、市として生活改善実践を計画している北モラサン市、南モラサン市などの国内東部地域の市長、市関係者、また校長の意向で教師や保護者会でも生活改善の考え方を共有しているロス・パトス学校関係者など、400名に使い方の説明と共に配布した。また、他地域への波及を意識し、普及手法や寄り添い



写真：他4県含む東部地域で生活改善フォーラムを実施。高校生も堂々と発表。首都や他県からも帰国研修員や関係省庁など集って意見交換がなされた。

活動を含むプロセスを、パンフレット、動画、フェイスブック（市役所公式、当法人公式）にて可視化した。

コンチャグア市内で4回、東部地域レベルで1回、地域内外への波及とサークル間の横の連携を目的としたフォーラム及び発表会を開催した。事業終了後も活動が継続するよう、帰国研修員や他地域の普及員との意見交換会も実施し、相互連携の継続についての協議がなされた。

### エルサルバドル国 南ラウニオン市コンチャグア区JICA海外協力隊としての活動と想い

JICA海外協力隊  
2023年4次隊 窪田淳

2024年5月にエルサルバドルに到着し、1ヶ月の語学研修を終えて6月からコミュニティ開発という職種でコンチャグア区役所に着任した。要請内容は2024年5月までの3年間IFPaTとコンチャグア区役所（旧コンチャグア市役所）主導で行われていた生活改善プロジェクトの成果の継続と区役所の自走期間の補助であった。この年の5月には市町村合併があったこともあり、私が着任した6月にはこのプロジェクトはもう終わった。という認識が役所内でも感じられた。そんな中、近くに住んでいた料理隊員の方がコミュニティの女性対象に生活改善の観点から料理ワークショップを展開してくれた。しかし彼が帰任するとともに料理ワークショップについても終わりだという雰囲気になった。

私は、国際協力の中で、理想の支援とは何かについて日々よく考える。その一つは支援が終わった後も現地の力で継続できる仕組みを作っていること。ではこのコンチャグアではどのように持続させていけるか。日本人がいなくなっても継続できる形はどんなものか。

ちょうど料理隊員の方との料理ワークショップを終えたコミュニティで、生活改善アプローチのワークショップを始めることができた。私自身生活改善の考え方を理解していく中、いつも与えてもらう受け身の姿勢だけではなく、彼女らも学んだことを誰かに教えてあげられるという経験、そして自信をつけてほしかった。

そこで生活改善ワークショップと並行して料理ワークショップを継続。今回は料理ワークショップ受講済みの方々が住民ボランティア講師として他コミュニティに教えに行く。



写真：住民ボランティアが他コミュニティにオムライスを教えに行く

もちろん住民ボランティアとして積極的に他コミュニティに行きたがる人たちが全員ではなかった。特に顕著に現れたのが、生活改善ワークショップを行っているかないかの差だ。またこの差は、受け入れる側のコミュニティの人たちにもあると感じたこのことから今後は考え方の基礎となる生活改善ワークショップから始め、次のワークショップなどに繋げていくことが効果的と考える。



写真：生活改善ワークショップ

現在はコンチャグア区役所の地域開発課の一員として3つのコミュニティで生活改善ワークショップを展開。同プロジェクトの経験のある同僚たちの異動や区役所の限られた車事情、他業務との割り振りや職員のモチベーションの維持など簡単にはいかないことも多い。しかし少しずつ前進していることもある。同僚の異動はプロジェクトを広げられる転機にもなっ

た。同僚の1人が区役所から市役所へ移動となり、全区役所の同部署を管轄する立場となった。彼女の協力を経て現在はこの生活改善プロジェクトをコンチャグア区だけではなく、南ウニオン市全域へ普及していく取り組みを行なっている。

草の根レベルでの活動は今回が初めてであるが、地道な活動で見えてきたのは、制度や物資だけで解決できない「貧しさ」のあり方だった。「貧困をなくす」という取り組みが世界各地で行われている。とても難しい問題で簡単には解決しない。では「貧しくても困らない」はどうだろうか。貧困の最大の問題を思考力の低下であると私は考えているが、家族のようなコミュニティの関係性ができ、個々がアイデアを出し合い助け合うことができれば、実現可能なのではないだろうか。着任して約1年。この生活改善手法で住民に少しずつ変化があることを感じている。特に住民がポジティブに物事を捉え、自発的にアイデアを出し合うようになってきた点においてとても有効的と感じている。今後もこのプロジェクトを継続させ、「貧しくても困らない」を作っていきたい。

### コンチャグアのコーディネーター デイジーからの便り（仮訳）

NGO イフパット様

南ウニオン市のコンチャグア地区では、2021年から現在まで、多くの経済的・社会的変化に直面しましたが、その中、生活改善アプローチ(EMV)は重要な活動ツールとして活用されてきました。

EMVを通じて、私たちは地域社会との交流を深め、自律的に働くことの重要性、そして個人として、家族として、そしてコミュニティとして、大きな変化を達成することの重要性について、より効果的に伝えることができることを私たちに教えてくれました。

これら成果は、他の地域社会でもEMVを実践し続けるためのモチベーションとなり、より多くの人々が前向きな変化を達成できるよう、支援し続けたいと私たちは考えています。

私たちのファシリテータースタッフは、8つの地区にある様々な社会支援ユニットとその部署のスタッフに対して研修をしています。そして、ウニオン・スル市全体でEMVを実践することを目指しています。

個人的には、EMVはどんな逆境にも立ち向かい勝利し、そこから抜け出すための最高の経験と学習機会を得るための鍵と言えるでしょう。何故なら、EMVは、自分自身の持つ力を活用し、より良い人間になることを教えてくれるからです。

変化の大小に関わらず、私たち自身の努力によってそれを達成することが、それこそ重要な成果なのです。

DAYSÍ NOHEMY VELASQUEZ

コンチャグア地区コーディネーター

### 草の根技協終了後1年ぶりに 現地を訪問しました

プロジェクトマネージャー  
FPaT理事・主任研究員  
和田 彩矢子

2025年5月、草の根技協終了後1年ぶりに現地を訪問しました。緑の募金事業と自主事業を組み合わせでのフォローアップです。

海岸部の青年層生活改善グループは高校3年となり「国際協力を大学で学びたいので今勉強を頑張っている」と発言する生徒も。また生活改善グループではない低学年の生徒たちに「植えたばかりの苗木だか



写真：ハグエイ集落の農業学校での緑化活動

から大切にするんだよ」「ここにゴミを捨てないよ」と自ら声掛けする姿が頼もしく感じました。校内や地域の緑化活動において、他の生徒と比べ、生活改善グループのワークショップ経験者は指示待ちではなくテキパキと動き、自ら汗を流し尽力する姿が目に見え付きました。

普及員として草の根事業で現地雇用していたアナさんは、海岸部で地域リーダーとなり、公的なADESCOの一員として地域美化や複数組織連携活動などに取り組む一方で、地域活性に向け、自主的に毎週土曜の夕方に集落の有志で伝統軽食フェアを開催していました。新たなメンバーも巻き込み、生活改善を知らなかった男性も「地域が活発になることに共感」し、グループ員となり、新鮮な海産物をセビチェにして販売。新メンバーにはアナさん自ら生活改善の考え方も伝えています。

暮らしを見直し、自分の好きな事を再確認し、起業の一步を進めたサークルメンバー達。沢山プレゼントを贈り合うエルサルバドルの文化に着目し、手作りのギフトラッピングやペーパーフラワーの販売・贈呈、自分のブランドを作り無添加の石鹸やオイルなどの販売、などそれぞれがますます前に進み自信をつけていました。何より、これも思いついたのよと楽しそうに語ってくれたのが素敵でした。



写真：手作りのギフト

市役所レベルに目を向けると、ファシリテーターとして共に活動した市職員たちは一年経っても解雇される事なく、むしろ、新たな3集落で生活改善ワークショップを実施し、集落間意見交換会を主体的に実施するなど、大変尽力していました。

加えて、市改変により合併した元8つの市(現在の南ウニオン市)全土の農村開発担当課に、今や

生活改善を伝えるためのワークショップや勉強会を同職員たちが講師となり実施し始めている事は、大変嬉しいニュースでした。

市改変で、コンチャグアが有していた複数車両が本庁で使われるようになったり、優秀な人材が本庁に異動したり、祭りの回数が増え日常業務が祭りの対応に追われる、など負担も増えているようです。それでも、「コンチャグア外の住民にも自信を持ってもらいたい。人づくりが大事だから。」という想いを職員たちから伝えられました。

国家政策のサーフシティの一環で、海岸部では空港建設の土壌整備が着々と進み、ウニオン港も一部再開され、今後コンチャグア周辺では大きな変化が待ち受けています。大きな変化がある中でも、生活改善サークルのマリセウさんが発言されていたように「私は自分自身を愛し、他の人に影響を与える事ができる。今では自分の強い精神力を感じられる。主体的になって、人生が大きく変わったと感じている。」と感じるような女性たち、青年層たちが増えて、人おこしから地域おこしにつながって頂きたいです。そのためにイフパットとしてもオンラインやSNSなどで彼らと継続して繋がり、応援していく所存です。

### イフパットだより37号に寄せて

エルサルバドルでのJICA草の根技術協力が終了して1年。終了時の完了報告書を基にイフパット便り特集号を作りました。また、特集号には、草の根技術協力のカウンターパート機関の市役所に2024年5月に着任したJICA海外協力隊「コミュニティ活動」の窪田淳さんの活動報告、そしてプロジェクト・マネージャーであった当NPO理事和田彩矢子のプロジェクト終了1年後の現地訪問記も載せました。住民の手で引き継がれる「生活改善活動」の力強さを実感できます。

編集文責 永井 和夫

### 「イフパットだより」に関する照会・連絡先

NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク（イフパット）  
〒300-1241 茨城県つくば市牧園5-13-203  
TEL : 029-875-4771 E-mail: info@npoifpat.com  
ホームページ: <https://npoifpat.com/>